問題

65歳女性。発熱と腹痛を主訴に来院した。

現病歴：4日前より発熱と腹痛を自覚し、近医を受診した。鎮痛薬を内服後、痛みは軽快したが、食後に再燃した。食事を休むと症状が改善するが、食後の腹痛を繰り返したため、受診した。

**既往歴**：糖尿病、高血圧症。C型肝硬変、脂肪肝に対して通院治療中である。

**現症**：意識は清明。身長151cm、体重82kg。体温37.9℃。脈拍89/分、整。血圧165/104mmHg。 眼球結膜に黄疸を認める。心窩部から右季肋部に軽度の圧痛を認める。Murphy徴候陰性。

**検査所見**：尿所見：尿ビリルビン3+、血液検査：Hb13.2g/dL、白血球5160、血小板11.2万、PT-INR 1.2、血清生化学検査：総蛋白7.1g/dL、アルブミン2.6g/dL、AST 140単位、ALT 214単位、LD 227単位、ALP 206単位、γ-GTP 301単位（基準8～50）、ChE 193単位（基準400～800）、アミラーゼ25単位（基準37～160）、クレアチニン0.61mg/dL、尿素窒素11mg/dL、総ビリルビン11.1mg/dL、直接ビリルビン8.7mg/dL、CRP 13.4mg/dL。

問1　まず行うべき検査はどれか。

a　腹部CT

b　内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）

c　腹部超音波検査

d　上部消化管内視鏡

e　腹部MRI

腹部CT画像を以下に示す。

問2　原因菌として頻度が高いものはどれか。2つ選べ。

a　*Clostridium difficile*

b　*Escherichia coli*

c　*Helicobacter pylori*

d　*Klebsiella spp.*

e　*Moraxella catarrhalis*

問3　この患者に対してまず行うべき治療として正しいものはどれか。

a　内視鏡的胆道ドレナージ

b　胆嚢摘出術

c　イレウス管留置

d　経皮経肝胆嚢ドレナージ

e　体外衝撃波胆石破砕療法

解答

１　c

2　b.d

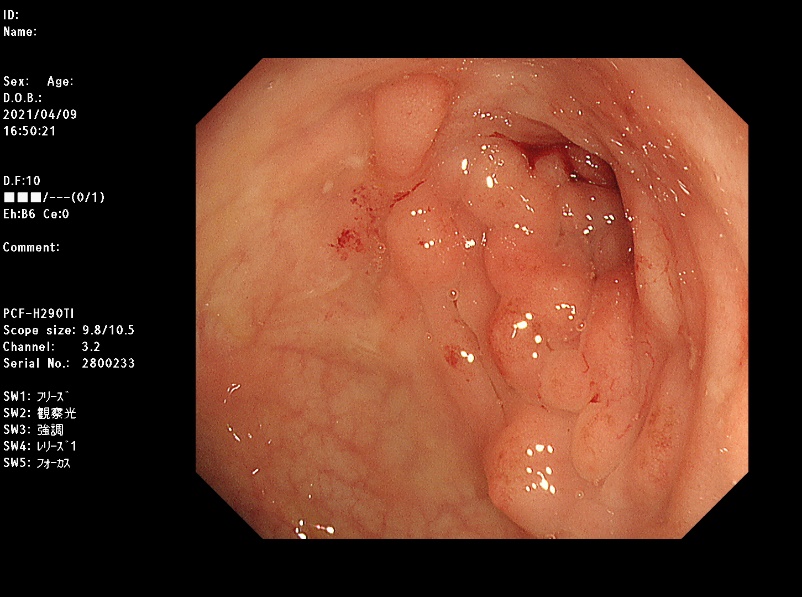
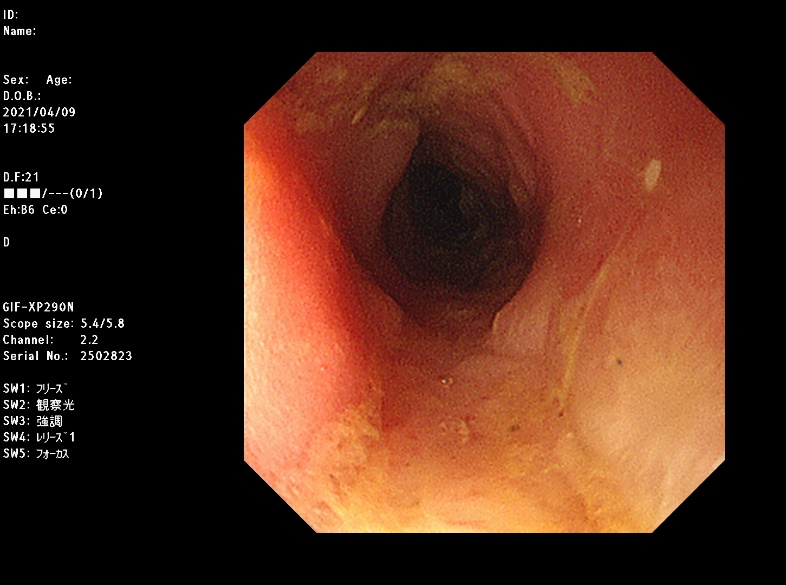
3　a

問題

28歳女性。腹痛と下痢を主訴に来院した。20代半ば頃から腹痛と下痢症状を自覚していた。下部消化管内視鏡を施行したところ、腸管の狭窄が認められた。

**現症**：身長149cm、体重37kg。体温36.5℃。脈拍109/分、整。血圧109/69mmHg。

**検査所見**：赤血球392万、Hb 6.9g/dL、白血球9500。血小板61.5万。血液生化学所見：総蛋白6.4g/dL、アルブミン2.4g/dL。免疫学所見：CRP 6.7mg/dL。

下部消化管内視鏡画像を以下に示す。

問1　この疾患によく見られる所見として正しいものはどれか。

a　鉛管状腸管

b　乾酪性肉芽腫

c　偽膜形成

d　敷石像

e　輪状潰瘍

注腸造影画像を以下に示す。

問2　この患者に適切な治療はどれか。3つ選べ。

a　外科的治療

b　5-ASA製剤

c　内視鏡的粘膜切除術

d　成分栄養剤

e　PPI投与

生物学的製剤を用いた治療を行う方針となった。

問3　生物学的製剤(抗TNF-α抗体製剤)を用いた治療の適応とならないものはどれか。

a　65歳以上の高齢者

b　腸管皮膚瘻を合併する患者

c　悪性腫瘍を合併する患者

d　Behçet病を合併する患者

e　関節リウマチを合併する患者

解答

１ d

2　a,b,d

3　c